

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	郡上市	学校名	郡上市立郡上東中学校			
校長名	小田 松尚	対象学年	全校	人数	48	人
活動名	ふるさと学習（全校） 夢活動プロジェクト （全校,学年ごと）		時間数	30	時間	継続年数 7年
題材	<p>① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他）[和良鮎友釣り教室, 森林体験（植栽）] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [郡上踊りお囃子, 郡上陣屋太鼓, 神楽笛, 陶芸・茶道] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [] ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [和良おこし協議会, 和良川漁業組合, 和良鮎を守る会との懇談から和良鮎まつり等への参加] ⑥ その他（ ） []</p>					
複数年継続するための工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識や技術が豊富な地域在住の講師を数年継続して招聘することで、生徒に地域に根付いている伝統文化を大切にしようとする情操を養うことができている。また,地域在住の講師の招聘で,教職員の異動や分掌等による担当教員の変更に影響を受けず, 毎年の活動が継続できている。 ・地域の各種団体との連携を図り, 各種イベントや地区行事への参加と文化祭での発表を恒例にすることで, 学習成果の発表の場を確保し, 生徒の自信と達成感・満足感に育んでいる。 					
<p>1 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識や技能を持つ地域人材の教育力を活用し, 郷土に根付いている文化や伝統芸能を習得することで, ふるさとに対する郷土意識を育てる。 ・技能を習得する過程で, 積極的に講師に働きかけたり, 生徒同士が互いに励まし合ったりして, 協働的に取り組む態度を育てる。 ・地域住民としての意識を育み, 郷土に誇りをもち, まちづくりへの参画意識を育てる。 <p>2 活動の概要</p> <p>【ふるさと学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間 平成29年 6月21日～11月9日（1回2時間×10回） ・分野 【郡上踊りお囃子】 【郡上陣屋太鼓】 【神楽笛】 【陶芸・茶道】 ・年間計画 <ul style="list-style-type: none"> 6月 「活動内容を知り, 見通しをもつ」 7月 「活動に慣れ, 基本を学ぶ」 8・9月 「地域の行事に参加したり, 課題を捉えて練習したりする」 10月 「仲間を意識して全体で揃える」 11月 「文化祭本番を意識して発表の練習をする」（別紙「年間計画」参照） <p>【夢活動プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間 平成29年 6月19日～10月29日 ・分野 和良地域の魅力発見（講話, ワークショップ等）和良鮎を守る会の活動への理解 和良鮎友釣り教室, 起業体験プロジェクト, 地域行事への参加の仕方を模索等 ・年間計画（別紙 参照） <p>3 地域住民との関わり, 地域社会への貢献の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公民館サポーターとして登録し, 公民館活動へ参加する生徒がいる。 ・地区の意見交流会等に参加して, 自分達の意見が地域作りに参考になることを実感してきている。 ・地域の行事に, 自分達で考えた企画を実現させている。 ・地域作りに積極的に参加しようとしている。また, 地域のボランティア活動への参加も増えてきた。 						

【ふるさと学習】

- ・和良振興事務所や和良公民館,西和良公民館,和良おこし協議会,郡上踊り保存会,和良老人福祉施設等地域の各種団体と連携して,ふるさと学習の成果を地域のイベントや祭りへ参加して発表している。

今年度実績の主なもの以下のとおり(予定も含む)である。

8/3和良鮎友釣り教室,8/9 和良老人介護保健施設夏まつり,8/13 西和良ふるさとまつり
8/14 ふるさと和良町納涼夏まつり, 9/28~起業体験プロジェクト,10/8 戸隠神社祭礼,
10/29 和良鮎まつり, 11/2 老人介護福祉施設訪問, 1/1ニュー・イーズ・マラソン

【夢活動プロジェクト】

- ・地域おこし行事である和良鮎祭りには,1年生が来場へのアンケートを実施し,このイベントに来た理由や和良の魅力を調査した。2年生は,起業プロジェクトとして取り組み,和良おこし協議会の支援を受けながら,学級での話し合いを行い,Tシャツとタオルを地域PR商品として企画し,販売した。さらに3年生は,昨年度のTシャツ販売の事例から,自分たちが,この祭りにどのように参加するのかを議論し,和良のPRをより強力に行いという願いの下,日本手ぬぐいを商品として企画販売した。
企画段階で,和良をどのようにPRするかの話し合いを重ね,自分たちの地域の魅力を再発見することができた。
- ・今年度は,昨年度に続き郡上ケーブルテレビに出演し,和良鮎まつりのPRを行った。
- ・和良鮎まつり当日は,自分達で企画作成したTシャツやタオル,手ぬぐいを販売したり,来場者に和良地域の魅力をアンケート調査したりするなどの活動をした。そのことにより地域に積極的に関わることができた。
- ・多くの生徒が地域行事へ参加し,イベント活動を支援した。今まで学習してきた地域の伝統芸能の発表であったり,スタッフとしての活動支援であったり,参加形態は様々ではあるが,地域住民との協働活動に取り組み,地域づくり,地域活動を盛り上げようと貢献している。
- ・学校だよりやホームページ等を通して,地域の指導者の協力を得て「ふるさと学習」に取り組んでいること,地域行事へ生徒が積極的に参加していることを地域住民に周知している。

4 活動を通しての児童生徒の変容

- ・全校生徒の約90%以上がふるさとに誇りをもち,ふるさとのために自分達ができることを取り組んでいこうとする意識やふるさとへの愛情をもっている。
- ・中学生でも,地域に対して様々なことが働きかけられることを実感してきた。そのため,地域おこし行事への主体的に参加する姿が増えてきた。(和良鮎まつりへの参加,祭り等へのボランティア)
- ・ふるさとの良さを学習することを通して,今まで身近に感じていたものが,実は地域の人たちが大切に守ってきたものであったり,今後も大切にしてほしいものであったりすることに気づいてきた。
- ・ふるさとの誇れるものを考え,それをいかにPRしていこうかを考えることができた。
- ・地域講師との触れ合いの中で,先人の人の生き方にふれ,それぞれの文化が多くの先人の手で大切に守れられてきたことを実感してきた。
- ・自分も地元の文化の担い手の一人として次の世代に伝承していこうという意欲をもちつつある。
- ・夢活動プロジェクトでの取り組みを通して,より積極的に地域に関わっていこうとする意欲を高めた。
- ・地域の団体への中学生としての参加が増えつつある。(地域の意見交流会への参加)